

令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について

令和3年10月11日
枚方市立枚方第二小学校

文部科学省が今年5月に実施した、令和3年度全国学力・学習状況調査の結果について、全国を基準とした経年推移等によって、本校の学力や学習の状況を保護者の皆様にお知らせします。結果によると、児童の生活習慣と学力には相関関係があることから、引き続き、保護者の皆様にもご協力をお願いいたします。

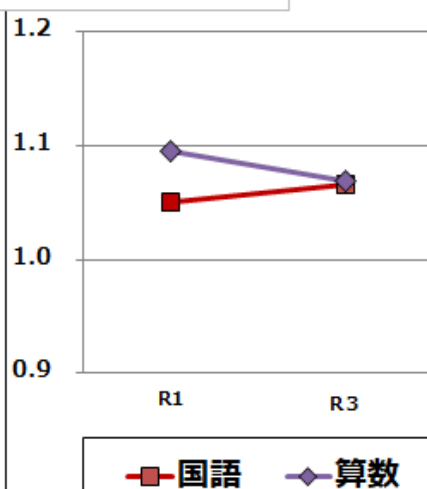
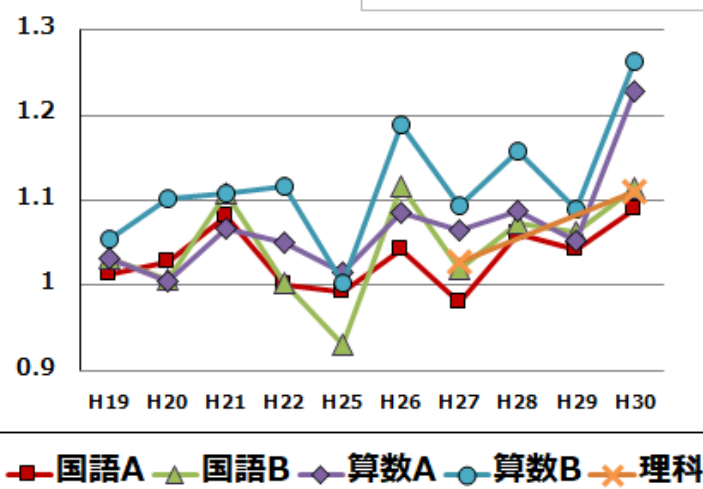
【全体概要】

学力調査の結果

学力調査結果の中から、本校と全国の経年比較(対全国比)をお知らせします。
(※令和元年度より、A・B問題が一体化されましたので、グラフを分けています。)

※調査結果について
教科や出題範囲が限られていることから、
全国学力・学習状況調査により測定できるのは、学力の特定の一部です。

(全国の平均正答率を1とした経年比較)



<学力調査結果の概要>

○国語について

→平均正答率は全国平均をやや上回り、概ね良好。「話すこと・聞くこと・読むこと」に関しては特に全国を大きく上回っているが、「書くこと」についてはやや下回り課題といえる。記述式問題も3問中2問が全国を上回るが、一方で無解答率が高い設問もやや多く見られる。

○算数について

→国語科と同様の傾向で、平均正答率は全国平均をやや上回り、概ね良好。すべての算数科の「領域」で全国を上回る正答率である。記述式問題にも丁寧に取り組み、4問とも全国を上回っているが正答率はやや低い。無解答率は、ほとんどの設問で全国を下回り、大きな課題は見られない。

※本調査は、平成19年度から実施されています。

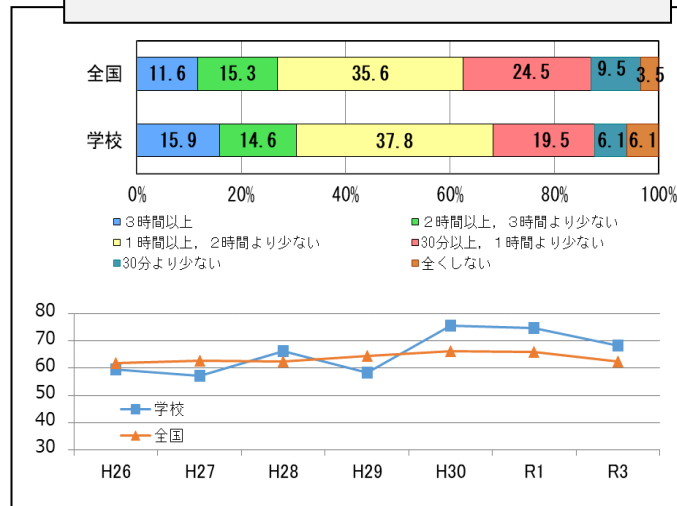
※平成23年度・令和2年度は中止、平成24年度は一部の学校を対象にした抽出調査のため、掲載していません。

質問紙調査の結果

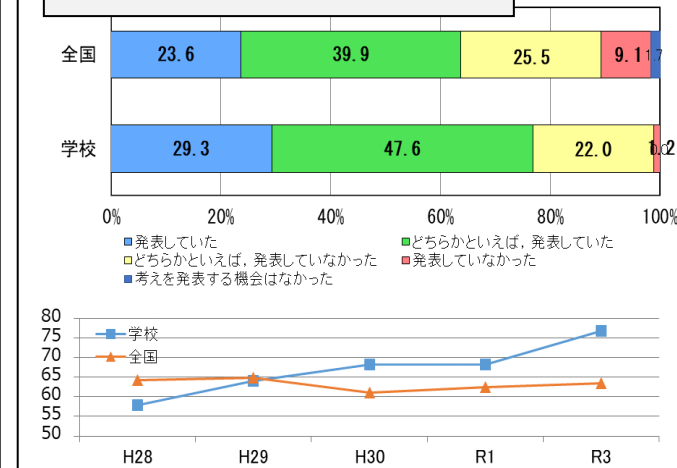
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合があります。

質問紙調査結果の中から、主な項目について、本校と全国の経年比較をお知らせします。

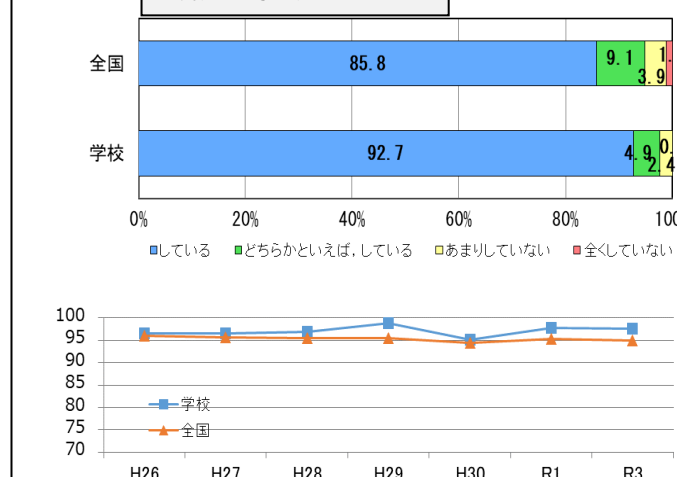
授業時間以外、普段(月～金)1日当たりどのくらいの時間、勉強するか。(1時間以上)



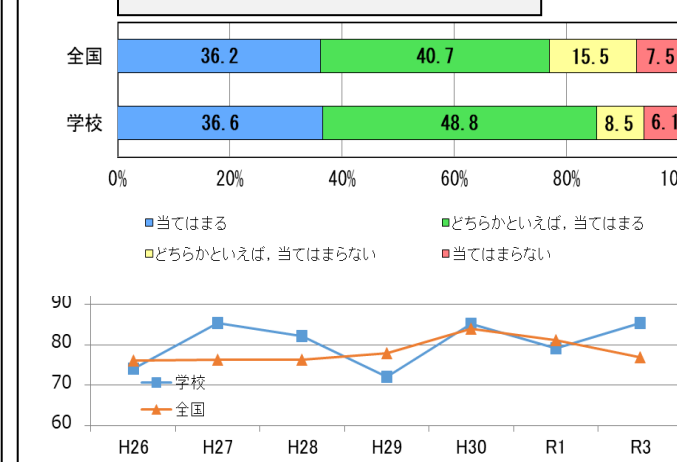
授業で自分の考えを発表する際、自分の考えが伝わるよう、資料や文章等を工夫して発表した。



朝食を毎日食べている



自分には、よいところがあると思う



<質問紙調査結果の概要>

家庭学習…「学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間勉強しますか(1時間以上)」と回答する児童が68.3%、令和元年度より6.5%下回る。

授業改善…「授業で自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てを工夫して発表した」と回答する児童が76.9%、令和元年度より8.7%上回る。

生活習慣…「朝食を毎日食べている」と回答する児童が94.6%、令和元年度と同じ値であった。

自己有用感…「自分には良いところがあると思う」と回答する児童が85.4%、令和元年度より6.2%上回る。

まとめ

学力調査からは、国語科では「書くこと」を中心にした、課題に対して粘り強く解決へ向けて取り組む意欲的な態度の育成、算数科でも記述式問題などで、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にして解決していく態度を育成していく取組が必要とされる。質問紙調査では、ICT機器の活用が学習に有効との意識が高いことを活かして、機器を活用し主体的に学習に取り組む態度を育てる。

※次ページ以降に、「各教科に関する調査」「質問紙調査」における詳細な結果について公表しております。

【詳細について】

教科に関する調査

<国語>

成果や課題があった設問

【成果】

問題の概要(見出し)

二 相川さんが読んだ「資料」の文の「より」と同じ使い方のものはどれですか。最も適切なものを、あとの1から4までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

そのため、一つ取り外さなければならぬホッパやボタンより留め外しの結果を面ファスナーの方が、留め具として通していたのです。

- 音楽会は九時より始まります。
- 雨天により試合は延期になりました。
- 会場へは正門よりお入りください。
- 今年の夏は去年の夏より暑いです。

	正答率	無解答率
本校	93.8	0.0
全国	87.5	0.3

(考察)
資料の文章中の語句の使われ方を理解している。同音異義語のそれぞれの意味を正しく理解し、文章の中で間違わずに読み取る力は国語科の学習のみならず、他教科や日常生活の中でも必要な力である。

【課題】

問題の概要(見出し)

二 丸山さんは、「『そうじたん当の人などがかたづけられよ』と考える人を説得するために、『西田さんの話』を用いて『文章の下書き』の『』部をくわしく書き進めようとしています。おこの条件に合わせて書きましょう。

【西田さんの話】(遊具置き場のそうじ担当)

毎日、そうじ担当が協力して遊具をかたづけられています。でも、そのために時間が足りなくなってしまう。はきそうじやふきそうじまで手が回らなくなることがあります。そんなときは、きれいにそうじができなくて困ります。

(条件)
○「そうじたん当の人などがかたづけられよ」という考えに反対する意見と、その理由を書けよ。
○「西田さんの話」から言葉や文を取り上げて書くこと。
○六十文字以上、百字以内で書くこと。

西田さん

	正答率	無解答率
本校	48.1	13.6
全国	56.6	9.6

(考察)
文章中から必要な情報を読み取り、自分の意見を整理しながら書くことが難しい。無回答率も高い。国語以外の教科や日常生活において、スピーチや文を書く経験を積ませる。文章を書く中で推敲を繰り返し文を作る練習を繰り返す。

家

<算数>

成果や課題があった設問

【成果】

問題の概要(見出し)

(2) たけるさんたちは、駅から7分歩いたところで、「博物館まで1000 m」や「駅まで500 m」と書いてある看板を見つけました。

500 m を 7 分間で歩く速さで歩き続けると、1000 m を歩くのに何分間かかりますか。
答えを書きましょう。

	正答率	無解答率
本校	92.6	1.2
全国	86.7	1.7

(考察)
数直線で表された「道のり」と「時間」の関係より、求める値を考察することができている。数直線で表されている数値の関係性を理解している。

【課題】

問題の概要(見出し)

(3) 次のような二等辺三角形があります。

上の二等辺三角形を4つ使い、次のように、同じ長さの辺どうしを合わせて、平行四辺形ABCDをつくりました。

平行四辺形の面積の公式を使って、平行四辺形ABCDの面積を求めます。
辺BCを底辺としたときの面積の求め方を、式や言葉を使って書きましょう。そのとき、平行四辺形ABCDの高さをどのように求めたのかわかるようにしましょう。
また、平行四辺形ABCDの面積が何cm²になるのかも書きましょう。

	正答率	無解答率
本校	53.1	3.7
全国	46.0	4.6

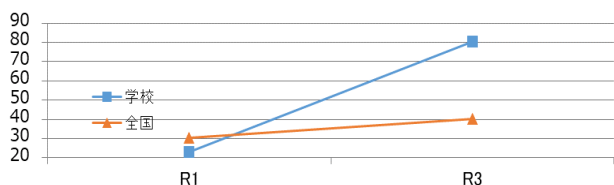
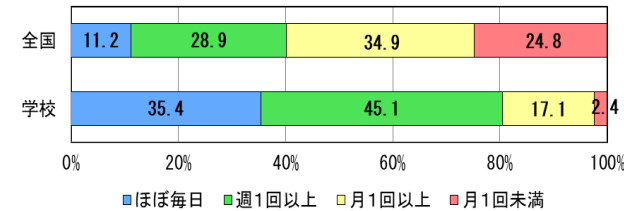
(考察)
立式して答えを求めることはできるが、なぜそのように求めたのかを筋道を立てて、理論的に説明することに課題がある。算数だけではなく授業中に、自分の考えが友達に伝わる文を書き、友達に自分の考え方を説明する活動を増やしていく。

質問紙に関する調査

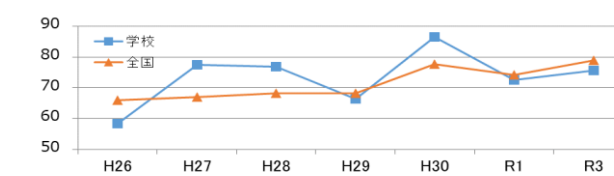
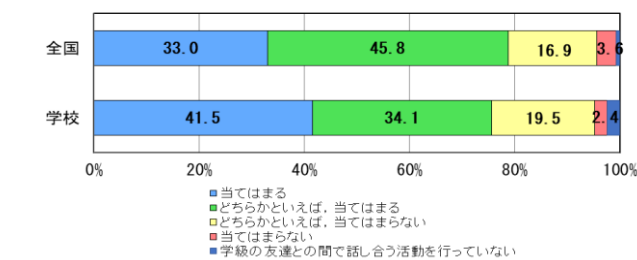
※帯グラフは、左から「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」を示しています。
 ※折れ線グラフは、「当てはまる」「どちらかといえば当てはまる」の合計数値となっています。
 ※無回答があるため、帯グラフの合計数値は100にならない場合もあります。

【成果のあった項目】

5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか。

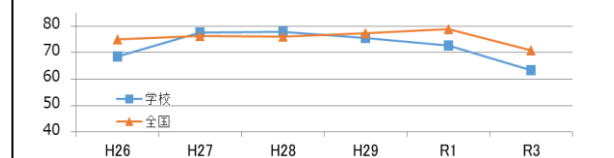
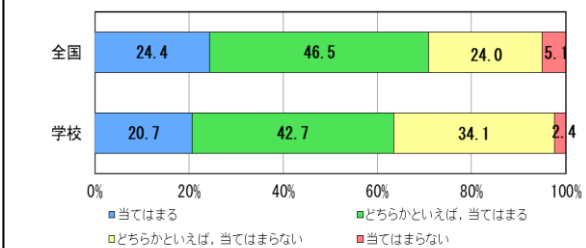


学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか。

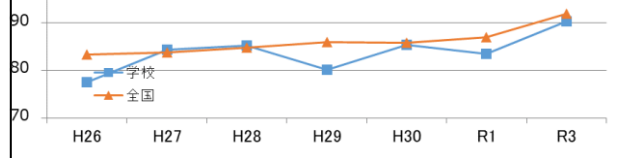
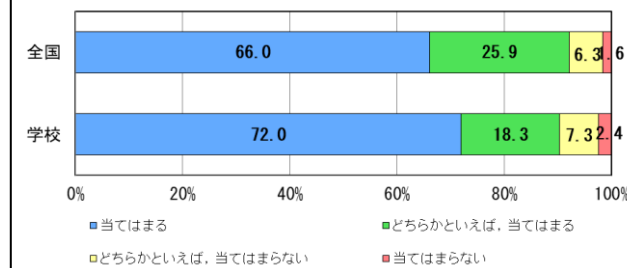


【課題が残った項目】

難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している



算数の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている。

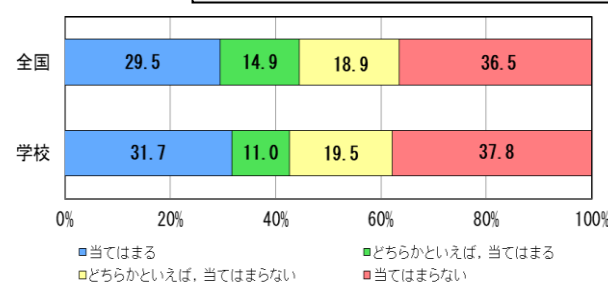


(考察)

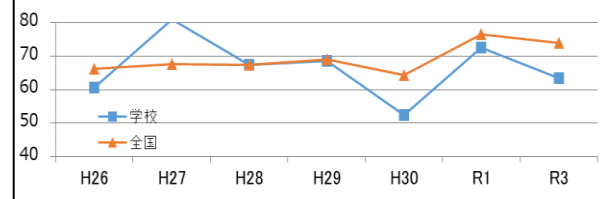
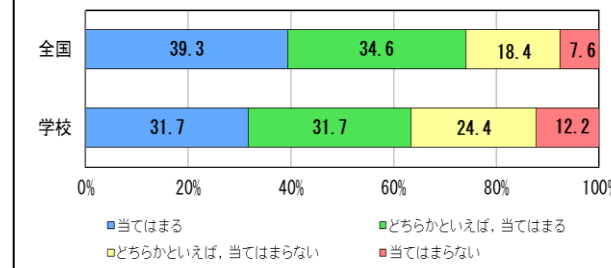
○ICT機器の活用について
 昨年より1人1台のタブレットを活用することで「5年生までに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」は令和元年度より57.4%高くなった。授業中だけでなくコロナ禍の中家庭学習や宿題提出などにも利用範囲が広がっていった。

○授業改善について
 「算数の授業で、問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いている」は6.8%、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」は3.0%令和元年度より高い。昨年度より取り組んでいる言語活動を充実させる取組の成果が出てきている。

これまで、学校の授業以外で英語を使う機会があった



算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える



(考察)

○「難しいことでも、失敗をおそれなくて挑戦している」、「算数の授業で学習したことを普段の生活の中で活用できないか考える」は令和元年度よりともに9.2%下回り、課題がある。また、「これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会があった」と考える児童が半数に満たないことから、授業で学んだ事を実生活に当てはめて考えることや人とのかかわりから知見を広げることによって消極的な児童が多いと思われる。様々な教育活動を通じて他者を知り、知識や経験を豊かにしていく活動に取り組んでいく。

分析結果を踏まえて今年度中に取り組んでいくこと

(1) 授業改善について

枚方第二小では「Hirakata 授業スタンダード」に基づき、「主体的・対話的で深い学び」を実現するために定期的に、校内研究授業を実施しています。すべての教職員が研修を積み重ねて授業力を高めることに努め、すべての子どもたちが「わかる授業」と感じるような授業実践をめざして研鑽を積んでいます。学習指導要領に則り、すべての授業では明確な「めあて」「ふりかえり」による学習の定着を図っています。さらに、これから学ぼうとする「単元」で「何を学ぶのか、どのように学ぶのか」「何ができるようになるか」等を考えた指導を行っています。2学期以降もこの取り組みを進めていきます。

また、本年度から本格的に1人1台のタブレット端末等のICT機器を計画的に活用しています。情報活用能力、つまり情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用し、問題を発見・解決したり自分の考えを形成していくために必要な資質・能力の育成にあたり、ICT機器の活用は欠かせません。

本年度の調査結果では「国語科」「算数科」とともに正答率が全国平均を上回りましたが、設問によって「無解答」の割合が多かったり、記述式問題の正答率が他の問題に比べてやや低かったという結果が出ています。枚方第二小の子どもたちにとって何が強みで何が課題なのかを教職員全員で共通理解し、各教科の領域や評価の観点ごとに、個に応じてきめ細かな指導の取り組みを行っています。また、2学期以降も本校の研究教科である「国語科」を中心に、枚方市教育委員会指導主事等からのサポートを受けながら研究授業および研究協議を行い、資質向上と授業改善に努めていきます。

(2) 家庭学習について

本校では、「家で自分で計画を立てて勉強をする」、「学校の授業時間以外の勉強時間」などについて、児童質問紙結果から見て全国平均をやや上回る結果が出ています。多くの子どもたちが意欲的に家庭学習に取り組み、主体的に学ぼうとする姿勢が見られます。2学期以降も、子どもたちが取り組む宿題や予習、復習、そして自主学習を子どもたちの実態に応じて支援するとともに、タブレット端末を学年に応じて家庭学習のツールとして効果的に活用できる方策を検討、実施してまいります。各家庭でもご支援いただきますようよろしくお願いいたします。